

そろそろスイセンが見頃を迎えます。もう、春はそこまで来ています。  
現在会員登録数 4,378 人さま。次号は 3 月 21 日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

《5》宮川健郎 私の出会った児童文学者たち ※今月は休載です

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■  
【1】お知らせ

●人形劇「エパミナンダス」を上演します。

大阪国際児童文学振興財団所属のボランティア人形劇サークル「ぱれっと」  
が、大阪府立中央図書館で、人形劇「エパミナンダス」を上演します。

日時：2月24日（月・祝）14：00 から ※ 無料、事前申し込み不要

主催：大阪府立中央図書館 こども資料室

●「日産 童話と絵本のグランプリ」表彰式・特別講演会

「第41回 日産 童話と絵本のグランプリ」表彰式で、本グランプリ審査員の  
吉橋通夫さんによる特別講演を開催します。

特別講演「物語を書くコツ」 講師：吉橋通夫（児童文学作家）

日時：3月8日（土）13：20～15：30 ◇表彰式 ◇特別講演会（約50分）

会場：大阪府立中央図書館 ライティホール

定員：70人（申込先着順） 対象：中学生以上 参加費：無料

主催：大阪国際児童文学振興財団

協賛：日産自動車株式会社

お申込み、詳細は ↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html#41lecture](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#41lecture)

●「寄付プレゼントキャンペーン 2月末まで実施中」

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募って  
います。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充て  
させていただきます。ぜひ、ご協力くださいますようお願いいたします。

2月末までのキャンペーン期間中、1万円以上ご寄付いただいた方に下記の  
中からおひとつプレゼントいたします。

◇プレゼント内容：

〈1〉富安陽子さんのサイン本 1冊（限定25冊・抽選）

〈2〉イイクロちゃんグッズ 全種類セット

〈3〉当財団発行のお好きな報告集 1冊

※詳細は → [http://www.iiclo.or.jp/donation\\_10th.html](http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html)

※Syncable（シンカブル）＝継続寄付（毎年／毎月）、単発寄付が選べます。

→ <https://syncable.biz/associate/19800701>

【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Yumiko's Talk

\*\*\*\*\*

『あこがれの図書館』 パトリシア・ポラッコ/作 福本友美子/訳 さ・え・ら書房 2024年9月 対象年齢：小学校中学年以上

\* 今回のゲストは翻訳家の福本友美子さん（F）です。

あらすじ：祖父とママと兄とミシガン州のユニオン・シティの農場に住んでいたパトリシアは、祖父と別れ、ママと兄と同じ州のバトル・クリークの小さな家に引っ越す。パトリシアは文字を読むことに困難を覚えたが、絵を描くのが大好きで、ウィラード図書館で画集を見つける。司書のクリービーさんはパトリシアが鳥の絵に夢中なのを知り、特別な本棚にあるジョン・ジェームズ・オーデュボンの画集を見せてくれる。パトリシアは、参観日のテーマを鳥にしようとする案を提案し、ミシガン州にあるオーデュボン鳥類クラブの会長からフリーモント小学校の会員第1号に認定され、バッジをもらう。著者の自伝的作品で、巻末には当時のウィラード図書館と図書カードの写真とバッジの絵が掲載されている。

Y：この絵本の魅力は何ですか。

F：主人公のパトリシアは引っ越し先の学校で楽しく勉強する一方、転校生としてどこか違和感を抱いています。けれど、絵と鳥という好きなものを見つけ、そのことによって学校でも活躍できるようになります。好きなことを見つけることの大切さが描かれている点がこの本の魅力の一つだと思います。

もう一つの魅力は、パトリシアのウィラード図書館司書クリービーさんとの素晴らしい出会いです。作者のポラッコには自伝的な作品が多くありますが、これまで『ありがとうフォルカー先生』（香咲弥須子/訳 岩崎書店 2001年）や『ありがとう、チュウ先生』（さくまゆみこ/訳 岩崎書店 2013年）など、先生との出会いが描かれた作品が翻訳されていました。この作品は、本と読者をつなぐ司書が、パトリシアの人生に大きな役割を果たします。

Y：パトリシアを見守り、1年生の子どもに貴重な画集を見せるなんて英断だと思いました。

F：大きくて、天井が高くて、大理石の床で、厳かでもすれば威圧的な雰囲気のある図書館に座り込んで画集を見続けるパトリシアを見ていて、この子には必要だと思ったんだと思います。私の司書の友だちが何人もここが心に残ったと伝えてくれました。司書は教師とはまた別の観点から子どもに寄り添うことができる素晴らしい仕事だと思います。私はもともと図書館員だったので、パトリシアに本当に必要なものを手渡してくれたこのクリービーさんの仕事ぶりに拍手を送りたい気持ちです。

私は、ロンドンの大英図書館などでオーデュボンの画集を何場面か見たことがあります。大きくて極彩色で周囲の植物と共に鳥が自然な姿で描かれていてそのすばらしさに感動しました。この本を読んだ日本の読者がいつかこの本に出会って「あのときの本はこれか」と思ってもらえたらうれしいなと思いました。

Y：訳されていて苦労されたところはどこですか。

F：パトリシアの家族はおじいちゃんと一緒に住んでいたところから別々に引っ越すことになり、一年後にはまた別の場所に移ります。その位置関係が日本の読者にはわかりにくいと思いました。そこで、原書にはないのですが、冒頭に地図を入れました。

Y：これで登場人物の移動がとてもイメージしやすくなりました。

日本では文の短い絵本が多いですが、この絵本は文章量がたっぷりあります。

F：1年生が主人公ですが、一人称で書かれ、大人になってから振り返るという形です。ですので、対象年齢は1年生よりもう少し上だと考えて訳しました。

Y：たっぷりした文章と絵のある絵本で、この本をきっかけに読むことの楽しさを知る子どもがいたらいいなと思って読みました。

絵から読み取れる物語も魅力的でした。たとえば、パトリシアは、学校で字が読めたら違う色のわかかのペンダントをもらえることになっているのですが、一人だけずっと最初にもらった緑のペンダントをつけたまま、つまり文字が読めないままです。その絵があることで、パトリシアの心の痛みが感じられました。また、鳥が随所に描かれていて、自由を求めるパトリシアの心を描いているように思いました。

F：緑のわかかのペンダントが悲しかったからこそ、図書カードとオーデュボン鳥類クラブの会員バッジがうれしかったことが伝わりますね。ポラッコの作品は絵が多くのことを物語り、場の雰囲気伝えてるので、いつもいい映画を観たような気持ちにさせてくれます。

\*\*\*\*\*

## 《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

### 第114回「タネリはたしかにいちにち噛んでいたようだった」

#### 早春の子ども

ホロタイタネリは、小屋の出口で、出まかせの歌をうたっています。――「山のうえから、青い藤蔓とってきた／…西風ゴスケに北風カスケ…／崖のうえから、赤い藤蔓とってきた／…西風ゴスケに北風カスケ…」このすてきな歌はまだまだつづくのですが、タネリがうたいながら、たたいているのは、冬中凍らせて、こまかく裂いた藤蔓です。藤の繊維は、衣服を織るのに使うのです。それでも、タネリは、むこうの野原や丘が明るく、かげろうがのぼっているのにさそわれて出かけます。たたいた藤蔓を一束もって、口でもにちやにちや噛みながら。お母さんは、うちのなかから、「森へは、は行って行くんでないぞ。」といます。

「タネリはたしかにいちにち噛んでいたようだった」は、前回の「若い木霊」（当メルマガ N0.173）を改作したテキストですから、タネリも、若い木霊と同じように、まだ雪の残る地面の枯草を踏んでいきます。墓にも栗の木にも出会い、そして、同じように「お前は鴉という鳥かい。」と叫ぶのです。

若い木霊は、「お前、鴉の火というものを持ってるかい。」とも叫びました。前回は、「鴉の火」は「この若い主人公の内に目覚めた官能の象徴」という伊藤真一郎の意見も紹介されました（伊藤「「タネリはたしかにいちにち噛んでみたやうだつた」論」1977年）。タネリのほうは、「おおい、鴉、／おいらはひとりなんだから、／おまえはおいらと遊んでおくれ。」と叫ぶ子どもです。

鳥を追いかけていったタネリは、暗く巨きな森の手前まで行きます。おかあさんが「は行って行くんでないぞ。」といった森です。そこには、「顔の大きな

犬神みたいなもの」がじっと立っていて、タネリは、あわてて逃げ帰ります。

先の伊藤眞一郎は、「一人の子供の、自然の中での非日常的な異世界との出遭いが語られたもので、一種の幻想譚」とも、「子供と早春の自然との無邪気な交歓の物語と見られなくもない。」とも述べています。

タネリは、藤蔓を噛んだり、吐き出して叫んだり、さびしくなって、また噛んだりします。子どもの発達段階のはじめを「口唇期」と名づけたのはフロイトですが、藤蔓を噛みつづけるタネリには、子ども性を感じます。

この作品は、童話集『注文の多い料理店』の装丁、挿絵を担当した菊地武雄を介して、雑誌『赤い鳥』に持ち込まれたという話が知られています。『赤い鳥』を主宰していた鈴木三重吉は、「君、おれは忠君愛国派だからな、あんな原稿はロシアにでも持っていくんだなあ」といって掲載しなかったというのです。(堀尾青史『年譜 宮澤賢治伝』1966年参照)

「サガレンと八月」(当メルマガ N0.140 参照)の「私」が語る、風から聴いた物語の主人公の子どももタネリでした。これも、もう一つの先行テキストと考えられます。そこには、「ギリヤークの犬神」も登場するのです。(馬車別当)

(本文の引用は、新潮文庫版『ポラーノの広場』によりました。)

\*\*\*\*\*

《3》子どもの本の珠玉のことば 68

\*\*\*\*\*

「あのコジンスキーさんの店のイースター用のぼうし、あんなきれいなのは、どこにもないねえ」そのことなら、わたしたちもとっくに気づいていました。わたしたち三人は、顔を見あわせました。そして、世界中のなによりも、あのぼうしをおばあちゃんにあげたいなあ、と思いました。

(『チキン・サンデー』 パトリシア・ポラッコ/作 福本友美子/訳 アスラン書房 1997年3月)

対談と同じ、パトリシア・ポラッコの自伝的作品です。「わたし」のおばあちゃんが2年前の夏に亡くなり、寂しい「わたし」は、近所に住むスチュワートとウィンストンと「きょうだいになる誓いの儀式」をしたため、ふたりのおばあちゃんを「わたしのおばあちゃん」と思うようになります。おばあちゃんは、毎週日曜日に教会へ行き、コジンスキーさんのぼうし屋までくると、すてきなぼうしを見てためいきをつきます。そして、夕飯にフライド・チキンを作ってくれます。

引用の部分は、フライド・チキンを食べているときのおばあちゃんの言葉と「わたし」たちの反応です。そこで、3人はコジンスキーさんのお店に行きませんが、年上の男の子たちがコジンスキーさんのお店に卵を投げたのを3人がやったと勘違いされて追い返されてしまいます。3人はコジンスキーさんに無実であることをわかってもらうために、イースターのための飾り物の卵を作って持って行きます。コジンスキーさんは、ロシア語でお礼を言い、3人をお茶に誘ってくれ、おばあちゃんのぼうしのために、卵を売るように場所を提供してくれます。3人は「ウクライナのたまご」と宣伝して売ります。

このように、この絵本には、いろいろな文化的背景を持った人たちが登場し

ます。ポラッコは一人一人の表情を豊かに描いており、特におばあちゃんとコジンスキーさんはこれまでの人生を感じさせてくれます。無実の罪を着せられた「わたし」たちがどうなるのか、おばあちゃんはぼうしを手に入れることができるのかなど、物語展開は起伏に富んでいます。「わたし」が血のつながりのないおばあちゃんに深い愛情を抱く点も心に残ります。今回読み直して改めて読み継がれてほしい本だと思いました。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

あべのハルカス美術館で3月16日まで開催されている巡回展「生誕140年 YUMEJI 展 大正浪漫と新しい世界」に行ってきました。夢二郷土美術館所蔵作品を中心に、竹久夢二(1884-1934)の絹本着色、紙本着色、水彩画、油彩画、版画、雑誌などの挿絵、スケッチ、絵葉書、人形など、約200点が展示されていました。

全体の構成はおおよそ時代に沿って、「1章 清新な写生と「夢二のオール・ヌーヴォー」」、「2章 大正浪漫の源泉－異郷、異国への夢」、「3章 日本のベル・エポック－「夢二の時代」の芸術文化」、「4章 オール・デコの魅惑と新しい日本画－1924-1931年」、「5章 夢二の新世界－アメリカとヨーロッパでの活動－1931-1934年」、「正木不如丘旧蔵 外遊スケッチ」となっています。絵には、夢二の人生と絵とのかかわりについての丁寧な解説が付され、夢二のドラマチックな人生と重ねながら絵を見ることができました。それゆえに、40代後半で海外へ行ったにもかかわらず、帰国してすぐに病気になって50歳で亡くなっているのがとても残念で、もっと絵が見たかったと思いました。

今回の展示の目玉は、生誕140年展の前に発見されて、初公開される油彩画「アマリリス」でした。図録解説によると、絵のモデルは恋人のお葉で、「タイトルとなっているアマリリスの花は夢二式美人と並び大きく描かれ髪飾りのようでもありオール・ヌーヴォーの影響も感じる西洋的なモチーフとなっているが、きもの姿の日本髪的女性と見事に調和して夢二ならではの和洋折衷の表現となっている。」とあります。アマリリスの花、お葉の頬と唇の色、着物の半襟、帯締めが赤が暗い背景や着物から浮き出ているように見え、とても魅力的です。

夢二の作品はデザインの魅力があります。描かれる女性たちの着物の柄も洋服も、千代紙や封筒や半襟のための絵もおしゃれで、やさしい色使いも心惹かれました。そして、掛け軸の表装の布地の柄すらもデザイン的で、夢二の絵に合っていると思いました。これまで何度か夢二展に行きましたが、今回は多様なジャンルでたくさん夢二作品を見ることができ、夢二の才能を改めて感じました。(K)

あべのハルカス美術館 <https://www.aham.jp/>  
(夢二郷土美術館 <https://yumeji-art-museum.com/>)

\*\*\*\*\*

《5》 宮川健郎 私の出会った児童文学者たち

\*\*\*\*\*

今月は、著者のつごうにより休載します。  
来月配信の次号(N0.175)は、第5章「古田足日先生」その2「散文性のかく得」(中の後半)です。  
<これまでの連載はこちらから>

■ ----- ■  
【3】全国のイベント紹介  
■ ----- ■

● J B B Y 子どもの本の日フェスティバル  
オンライン「子どもの本のおしごと相談室」  
日時：3月20日（木・祝） 15：00～17：00  
対象：小学生～高校生 50人 ※有料、要申し込み（3/3～）  
講師：小松原宏子・那須田淳（児童文学作家）、あべ弘士・ひろかわさえこ（絵本作家）、かみやにじ・笹山裕子（翻訳家）  
主催：日本国際児童図書評議会（JBBY）

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■  
【4】プレゼント  
■ ----- ■

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『あこがれの図書館』をプレゼントします。ご希望の方は、プレゼント応募フォームから、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ ご応募ください。

応募フォーム⇒ <https://forms.gle/uL2TpNhMEYWJpnQ9A>

締切は3月10日（月）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

児童養護施設で人形劇を上演しました。3歳から小学3年生までの20数名の子どもたちといっしょに、ふたつの演目を鑑賞しました。子どもたちはとてもにぎやかで大盛況。舞台裏の仕掛けなども披露していただいて、子どもたちはさらに大喜び。子どもの喜びが伝わって私たちも楽しくなりました。

（T A）

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html)

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp